

留学だより Vol. 5

皆さん、こんにちは。ドイツに留学中の13期生の野上です。

年が明け、1月になりました。

明けましてよろしくお祈りします。

ますます寒くなってきましたが、ホストファザーの入院も終わり、ひとまずは安心しました。



←新年を祝う花火

年が明けた瞬間に地球にいなかった、年越しそばを食べていた、寝ていた等人によってさまざまな年明けがありますが、私の年明けは花火を打ち上げた、でした。

ドイツでは夏ではなく年明けの瞬間に花火をするのが主流らしく、スーパーで日本では珍しい打ち上げ式の花火が売られています。

道なき道のハイキング→

新年明けましてハイキング。

正直に言うと山登りは得意ではないのですがそれはそれとして楽しいです。

クライミングをよくやっているせいかわ、最近はこのようにこぼこした岩であったり壁であったりを見るとどこに手や足をかけて登るかをなんとなく考えるようになってしまいました。



フォルダの中にあっただけれど

撮った覚えのない写真→

最近日本にいたころと違って毎日のように外出しているためかスタミナがついてきたように思えます。それはそれとして運動後に筋肉痛で悶え苦しむのは変わっていませんが。





←Dresden 聖母教会前 マルチン・ルターの像

なぜ聖母教会前にルター像があるのかというと、ここがルター派として建設されたからだそうです。聖母教会内に入れはするのですが中央のホールには入ることができず、まるで展望台のようになっていてドレスデンの町がすべて見渡せます。風がとても心地よく、手元のパンフレットが飛ばされてしまうほどでした。

展望台(221feet=65m?)からの写真↓



Gedenkstätte Buchenwald(ブーヘンワルド強制収容所)



今までドイツの楽しいことを書いてきましたが、ここからはドイツの少し悲しい歴史について書いていこうと思います。学校の歴史の授業の移動教室で、元強制収容所の見学に行きました。

この収容所では、歴史で学んだ非道で、理不尽な収容や労働、殺害が行われた傷跡が残っていました。

積み上げられた死体の山の写真、劣悪な環境の独房、懲罰に使われた拷問用具など、教科書で見ただけでは実感の湧かなかった、これが実際に起きた事実であるということがひしひしと伝わってきました。



年が改まったこともありますし、現代の日本に生まれた私はどのように生きていくべきなのか、しっかりと考えてみたいと思います。では、また来月。